

平成21年度三重県公共事業事後評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	全体事業概要と目的	採択年度	完了年度	総事業費	事業の効果	事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化	事業を巡る社会経済情勢等の変化	県民の意見	今後の課題	委員会意見概要
						当初	当初						
						最終	最終						
防災ダム事業 地震対策ため池防災工事	501	横山池	津市	<p>【全体事業概要】 堤体工 L=1,248m 余水吐工 2箇所 取水施設工 4箇所</p>	H8	H15	1,150	<p>直接効果 【費用対効果分析】 計画時2.85 現時点2.59 【定量化できない効果】 心理的効果(安心)の発揮 【施設の管理状況】 適切に管理 間接的効果 ゴミの減少</p>	<p>事業として生き物調査等は行っていませんが、アンケート結果からも、環境に大きく影響は与えていません。</p>	<p>受益農地のほとんどが過去には場整備事業が実施されたこともあり、現在も良好に保全されています。</p>	<p>浸水被害を未然に防止するという目的に対する事業効果は発揮しています。しかしながら、アンケート結果から、「自然環境に配慮した工事の実施」「安全対策(ため池への転落防止対策など)の実施」に対し配慮が必要であると考えます。</p>	<p>・アンケート調査の分析から、今後は今まで以上に「自然環境に配慮した工事の実施」、「安全対策(ため池への転落防止対策など)の実施」に対し配慮が必要であると考えます。 ・現時点で営農面積や管理体制に大きな変化は見られませんが、今後の営農について「自分の後は未定」との意見が最も多かったことから、地域の営農ビジョンの策定が必要と考えます。 ・将来の維持管理体制に関する農業者の不安や(早朝からの)出合い管理作業に対する周辺住民の不満などがあります。</p>	<p>課題に対する対応方針を含めた事後評価の妥当性を認める。ただし、今後の整備についても、さらなる農業農村振興につながる事業の推進をはかられたい。</p>
				H15		1,126	<p>【目的】 当横山池は、津市芸濃町のほぼ中央部に位置し、約170haの水田に用水をかんがいしている農業用のため池です。 しかしながら、堤体法尻からの漏水が著しく、余水吐、取水施設なども老朽化していたことから、安全性が大きく低下していました。また、池の直下流には集落が密集しており、破堤した場合には大規模な被害が発生する恐れがありました。 このため、堤体、余水吐、取水施設の改修を行い、下流に位置する農地、農業用施設、幹線道路、家屋等への被害を未然に防止</p>						

平成21年度三重県公共事業事後評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	全体事業概要と目的	採択年度	完了年度		事業の効果	事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化	事業を巡る社会経済情勢等の変化	県民の意見	今後の課題	委員会意見概要
						当初	当初						
						最終	最終						
ほ場整備事業	502	漕代地区	松阪市	<p>【全体事業概要】</p> <p>区画整理 274.5ha 道路工 34.2km 用水路工 48.0km 排水路工 28.1km 近代化施設用地整備 1箇所(A=0.1ha) 農業集落道 8.1km 農業集落排水 1.4km</p>	H5	H15	5,052	<p>【直接的効果】</p> <p>農道や排水路の法面に植生緑化</p> <p>整備により大型機械による効率的な営農、田畑輪換による転作が可能となり、用水のバイブライン化等により維持管理の省力化、担い手への農地集積が進展</p> <p>乾田化により、小麦や大豆、ブロッコリー、ナバナなどの畑作物が作付け可能。また、維持管理の省力化により、水路の土砂上げ等が集落での共同作業により、適正に管理</p>	<p>農道や排水路の法面に植生緑化</p> <p>低騒音・低振動・排ガス対策型の建設機械を使用</p> <p>平成21年8月に実施した生きもの調査では、メダカやドジョウ、タナゴなどの魚類、タイコウチなどの水生昆虫の生息を確認</p> <p>地域住民へのアンケート結果から「動植物が減った」との回答が約49%あり、今後の整備については一層の配慮が必要</p>	<p>農村集落の急速な過疎化や高齢化</p> <p>農地・農道・用排水路の維持管理を農家のみで実施することが困難</p>	<p>受益地の関係7集落の全住民588戸にアンケート調査を実施</p> <p>408戸から回答(農家148戸、非農家260戸)</p> <p>(農業効果) 農家の93%が「効果あり」と回答 ・維持管理が楽になった ・農作業が楽になった</p> <p>(農業以外の効果) 全住民の90%が「効果あり」と回答 ・道路の通行がスムーズになった</p> <p>(環境への影響) 動植物については、「減った」との回答が約49%と高く、樹木の伐採により昆虫や魚類が減ったとの意見が多い</p> <p>(農地・施設の管理状況) 全住民の60%が「良く管理されている」と回答しているが、9%が「あまり管理されていない」と回答し、比較的適正に管理されている</p>	<p>(ほ場整備事業における課題)</p> <p>農家の高齢化や後継者不足</p> <p>農家数の減少により農業者だけで農地や農道、用排水路の維持管理が困難</p> <p>環境へ配慮した取り組み</p> <p>(社会的背景等)</p> <p>県内におけるほ場整備事業は、すでに83.4%が整備され、実施地区が大幅に減少</p> <p>国内食料自給率の低さ、食の安全・安心に対する消費者ニーズの高まりなどを踏まえて事業を実施することが求められている。</p>	<p>課題に対する対応方針を含めた事後評価の妥当性を認める。ただし、今後の整備についても、さらなる農業農村振興につながる事業の推進をはかられたい。</p>
				<p>【目的】</p> <p>・現状は不整形で狭小な田畑</p> <p>・また農道、用水路、排水路も未整備</p> <p>・このため、農業用機械の搬出入や農業用施設の維持管理に苦慮</p> <p>・ほ場整備事業により、大区画のほ場整備、農道や排水路の整備、用水のバイブライン化を実施</p> <p>・農業生産性の向上、農業経営の合理化、担い手の育成を図る</p>				H15	5,360	<p>【間接的効果】</p> <p>ほ場整備を契機として、地域内の繋がりができ、住民の環境や景観に関する関心が高まり、環境美化活動組織が結成されるなどボランティア活動が活性化</p>			

平成21年度三重県公共事業事後評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	全体事業概要と目的	採択年度	完了年度	総事業費	事業の効果	事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化	事業を巡る社会経済情勢等の変化	県民の意見	今後の課題	委員会意見概要
						当初	当初						
						最終	最終						
砂防事業	507	小高山(こたかやま)川	津市	[全体事業概要] 砂防えん堤工 2基 溪流保全工 180m	H11	H16	490	<p>達成状況の評価</p> <p>砂防えん堤の整備により、上流から流下すると想定される土砂量に対し、約92%の土砂を止めることができ、既存施設と合わせて100%の土砂量を止める効果が確保され、異常気象に対する地域の安全度が向上した。</p> <p>当初の効果と完了後の比較</p> <p>保全対象: 人家9戸、市道300m、橋梁3橋、耕地0.3ha 事前: 実施していない 事後: B/C=1.05</p> <p>以外の定量化できない他の効果</p> <p>地域の土砂災害に対する安心感向上や、山地森林保全効果が発揮できる。</p>	<p>環境及び景観への配慮</p> <p>えん堤を修景し景観に配慮した。 水生物や動物の移動を妨げないスリットえん堤を採用した。 護岸ブロックは水辺環境の早期回復に配慮した。</p> <p>周辺環境の変化</p> <p>えん堤表面はコンクリート色が残り、今後の調和が期待される。 えん堤への土砂堆積はなく、土砂流出に対し十分な機能を有している。 溪流保全工により安定した流路となり、また取水施設の機能回復により地域の環境に役立っている。</p>	<p>土地利用状況の変化</p> <p>土地利用状況に変化はなく、事業による効果は当初計画時に想定したものが現在も継続している。</p> <p>土砂災害に対する住民への対応</p> <p>近年の異常気象に対し、ハード整備とともに警戒避難体制の整備などのソフト事業が重要となっている。</p>	<p>アンケートの結果</p> <p>アンケートによる住民の意識 ・えん堤の整備により住民の安心感が高まったとの評価を得ている。 ・えん堤の修景について、環境への配慮が評価されている。 ・近年の土砂災害を契機に土砂災害に対する住民の意識も向上している。 ・ほとんどの方が砂防事業の必要性を感じている。 ・ハード整備に加え、ソフト事業を推進するなど、警戒避難に対する関心も高まっている。</p> <p>その他意見 ・危険箇所の対策を一日でも早く実施して ・修景は場所によって配慮が必要</p>	<p>事業実施上の課題・問題点</p> <p>ハード整備の完了には長い年月と費用がかかるため、今後の砂防事業は、ハード整備とともに住民が的確に避難行動を行えるよう、情報提供システムなどの整備を行うソフト対策との連携により、総合的な土砂災害対策に取り組んでいく必要がある。</p> <p>今後実施する事業への留意事項</p> <p>砂防えん堤の修景など環境への配慮を行う場合は、過度なものとならないよう周辺環境の調査を行い、地域住民の意見を伺いながら、現地の状況に適したものとする。</p>	<p>課題に対する対応方針を含めた事後評価の妥当性を認める。</p>
				H16		555							

